

病院内にはまだまだブラックボックスの部分が

国際医療福祉大学大学院
保健医療学専攻 災害医療分野
学籍番号 18S1030 蛭原 大作

ゆきさんへの手紙

打出先生の講義は、病院勤務の看護師としては他人事ではありませんでした。

公益通報や内部告発をしなくてすむような健全な組織がもちろん理想ですが、多くの方が関係する職場では、職種や価値観、または学歴など複雑にからみあい、信念対立が起こることがあります。

対立した時に白黒はっきりとできる物差しがあれば良いのですが、そうは簡単にいきません。そのほとんどが倫理観での話だからです。金沢医大の臨床試験の話も、法律では当時はどうすることもできなかったことと思います。

HPV ワクチンについては、打出先生の講義をもとに考えますと、予防接種法（A）にカテゴライズされたために、世の中の人に「打つのが当たり前」的な印象操作が加えられた可能性があると考えました。法律を逆手にとられた状態です。

統計データは、分析者が考察部分でどのようにも書けることを、大学院生や研究者はある程度知っています。

しかし、ほとんどの一般国民は、医者が打てと言っている、法律で決まっていると言われてしまうと、贖うことが困難となります。

否定派、肯定派の資料やデータが世の中に広まったところで、それをどう解釈するかは一般国民であり、なにが正しいかは本当のところわからなくなります。「これを打たなければ子宮頸がんになるよ」「予防接種法でも決まっているよ」と言われれば、大抵の親は接種させると思います。

この講義の受講生の中には、「内部告発を一度は考えた」というケースを経験している人が少なくないと考えております。

私や友人の場合がそうでした。10年ほど前に手術室で勤務していた時のことです。

白内障手術ではヒアルロン酸を使用するのですが、複数の患者に使いまわしていたり（感染リスク）、実際は使いまわしたのに、それぞれの患者に1本分のヒアルロン酸を請求したり（詐欺罪？）している病院が多くありました。

友人は病院長にまで伝えたのですが改善せず、厚生労働省に伝えましたが、その後何も反応なし。結局、その友人は病院を退職することになりました。

病院内はまだまだブラックボックスの部分があり、被害者が被害者として認識されず闇に葬られている印象があります。